

## 第5回 あげお未来創造市民会議 会議録

1. 日 時 令和元年9月27日(金) 9時30分～11時30分

2. 場 所 青少年センター会議室

3. 出席者 委員：飯塚 純 ・伊原広茂 ・大木晴夫 ・大澤サユリ ・大塚常司  
岡部千里 ・小川和男 ・小川早枝子 ・河原塚透 ・桐原陽子  
小島 勝 ・小牟田健治 ・関本正弘 ・高橋雅之 ・竹村絵里  
刀根正克 ・中澤正俊 ・能登 貢 ・萩原和也 ・本城文夫  
増田澄雄 ・的場保子 ・宮田敬生 ・矢島通夫 ・山尾三枝子  
山口 直

(欠席委員 市倉育江 ・木村功一 ・鈴木靖代 ・野田紘良)

事務局：行政経営課野崎課長・本郷副主幹・東海林主任・三浦主任

加計外チーム：永澤副主幹・松本主査 ・鈴木(彰)主任 ・大橋主任 ・鈴木(陽)主任  
吉岡主任 ・野澤主任 ・林主任 ・田中主任 ・細井主任  
石川主任 ・野間主任

コンサルタント：株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング

## 4. 次 第

〈第5回あげお未来創造市民会議〉

- 1 開会
- 2 グループ討議  
・まちづくりの基本方向の検討
- 3 その他
- 4 閉会

## 5. 配付資料 次第

あげお未来創造市民会議～第5回資料～

まちづくりの基本方向の検討 (Aグループ～Dグループ)

市民会議 (第1～4回) 振り返り資料

## 6. 議事概要

〈第5回あげお未来創造市民会議〉

### 1 開会

委員長：皆さま、おはようございます。本日は、お忙しい中ご出席をいただきましてありがとうございます。これより、第5回あげお未来創造市民会議を始めさせていただきます。はじめに事務局から配付資料の確認をさせていただきます。

《事務局から配付資料の確認》

## 2 グループ討議

委員長：それでは、次第に沿って進めてまいります。次第の2「グループ討議」についてですが、前は「上尾市の望ましい姿」をイメージし、「将来都市像」と「基本理念」について議論したところですが、今回は「まちづくりの基本方向」について議論していただく予定です。

《コンサルタントが「あげお未来創造市民会議～第5回資料～」に基づき、前回の議論のあらましや本日の協議テーマ、協議の方法などについて説明》

《4グループに分かれ、「まちづくりの基本方向」について議論し、発表した》

委員：Aグループではまず、「人権の尊重（人権・男女共同参画・平和）」について協議しました。現行計画からの修正点としては、「人権の尊重」の範囲を広く捉え、子どもや障害者、外国人など社会的弱者への思いやりを育むことを促す文章が必要ではないでしょうか。次に、「暮らしの安心・安全確保（交通安全・防災・危機管理・消防・防犯・消費生活）」については、やはり高齢者や外国人などに配慮しつつ、地域全体で分野横断的な取り組みを進めることが重要ではないかとの指摘がありました。特に消費生活については、特殊詐欺の防止をにらんだ記述を明記してはどうかとの意見もありました。このほか、安心・安全なまちの実現に向けては、市民同士の助け合いのほか、情報伝達手段の拡充が重要であるとのアイデアのほか、空き家対策も求められるとの指摘がありました。次に、「都市基盤の整備（土地利用・住環境）」については、修正点として「公園機能」に「トイレや水道」を追加してはどうでしょうか。また、「駅の再整備」との文言がありますが、内容が不明確であるとの指摘がありました。このほか、この度の台風被害も踏まえ、「電柱の地中化」を進めることが必要であるとの意見のほか、魅力ある店舗の育成や商店街の活性化を訴える意見もありました。次に、「交通環境の充実（交通・道路）」ですが、「サイクルシティ」に関する市の考え方がよく分からないとの指摘がありました。また、バスの本数の増加や免許証返納後の交通対策の充実のほか、民間の空きバス活用など、新たな交通システムの検討を求める意見がありました。「市民参加と協働の推進（市民活動・コミュニティ支援・交流・情報共有）」については、「広報・広聴の充実」が重要と考えます。現行計画からの修正点としては「協働の仕組み」や「コミュニティの役割」といった文言をより具体化すべきではないかとの意見がありました。このほか、「区長制度廃止後のコミュニティのあり方」について、リーダーシップの確保や横のつながりなどに留意しつつ、新たに文章を追加してはどうかといったアイデアもありました。最後に「新たな行財政運営（行政運営・財政運営・公共施設）」については、「公平・公正な行財政運営を行う」との文言を加えてはどうかとの意見のほか、市議会の透明性を高めるための取り組みや、市長との対話を求める意見も出されまし

た。

コンサルタント：「人権の尊重（人権・男女共同参画・平和）」と「暮らしの安心・安全確保（交通安全・防災・危機管理・消防・防犯・消費生活）」の双方につき、施策のカバー範囲の拡大について明記してはどうかとのご意見をいただきました。「交通環境の充実（交通・道路）」については、高齢化社会のまちづくりを見据えた交通システムに関するご意見をいただきました。「市民参加と協働の推進（市民活動・コミュニティ支援・交流・情報共有）」と「新たな行財政運営（行政運営・財政運営・公共施設）」については、行政と市民の距離をいかに縮め、協働を実現していくかといった観点からご意見をいただきました。

委員：Bグループではまず、協議の前提となる市の現状について確認しました。市内には現在、外国人が約3,600人、障害者が約8,800人いるほか、要支援・要介護認定者は約7,000人、軽度の認知症にかかっている人も約6,800人いるとみられ、このほかにも何らかのハンディキャップを抱えている人を合わせると、人口の1～2割の人は生活する上での支援を必要としていると考えます。こうしたことを踏まえつつ、ハンディキャップを抱える方が何を必要としているかといった観点から協議した結果、「社会保障の充実（生活福祉・高齢者福祉・障害者福祉・健康）」については、民生委員の増加も含めた「担い手の確保」のほか、障害者支援の窓口一本化が必要であるとの意見が出ました。次に、「地域文化の継承と創造（文化・芸術・文化財）」については、担い手が高齢者に偏りがちである印象を受けるので、「地域文化の普及」についても留意してほしいとの意見がありました。次に、「生涯学習・スポーツの振興（生涯学習・スポーツ・レクリエーション）」については、「施設の確保」や「指導者の育成」が求められると思います。このほか、テーマ全体につきまして、外国人にも分かりやすい日本語表記を心掛けてほしいとの意見もありました。次に、「市民参加と協働の推進（市民活動・コミュニティ支援・交流・情報共有）」についてですが、コミュニティを活かして道路の舗装など、都市環境の維持管理が行えないかといったアイデアのほか、子どもが参画するイベントを開催してはどうかといった意見がありました。最後に、「新たな行財政運営（行政運営・財政運営・公共施設）」については、財政状況の厳しさのみを強調するのではなく、フレキシブルな財政運営を心掛けるべきであるといった意見のほか、ホームページ以外のメディアも活用するなど、情報公開の透明性を高めてほしいといった意見もありました。

コンサルタント：「社会保障の充実（生活福祉・高齢者福祉・障害者福祉・健康）」については、現場での感覚を踏まえ、担い手不足についてご指摘いただきました。また、「地域文化の継承と創造（文化・芸術・文化財）」については、若者も意識した「地域文化の普及」に関するご意見をいただき、「生涯学習・スポーツの振興（生涯学習・スポーツ・レクリエーション）」では、場所の問題について提起していただきました。「市民参加と協働の推進（市民活動・コミュニティ支援・交流・情

報共有)」については、インフラ整備などにおいても住民の力を活かしていくことができないかといったアイデアをいただきました。

委員：Cグループではまず、「持続可能な循環型社会の形成（環境保全・廃棄物・リサイクル・生活環境）」について議論したところ、そもそもごみを出さないような工夫が重要なのではないかといった指摘がありました。また、併せて小・中学生への環境教育を強化していくことも大切です。次に、「良好な水循環・水環境の形成（上水道・下水道・河川）」ですが、ボランティアの力を活用して少しでも河川をきれいにしていけたらと思います。また、道の舗装も、できるだけ水が地下に浸透していくことを可能にするデザインにしてはどうかといったアイデアがありました。次に、「緑の保全・創出（みどり）」につきましても、休耕地を管理するのが難しいといった課題があると認識しています。行政としては、緑に関する比率等を公表して可視化してはどうかとの意見がありました。次に、「地域産業の振興（土地利用・住環境）」については、工業特区をつくってはどうかといった意見がありました。次に、「労働環境の充実（勤労者・就労支援）」については、交通機関を充実させ、通勤の円滑化を支援するべきであるとの指摘がありました。次に、「市民参加と協働の推進（市民活動・コミュニティ支援・交流・情報共有）」ですが、市民がどのように行政に協力できるかを考えると、やはりボランティア活動が重要であると考えるので、ボランティア同士の連携の仕組みを整え、より活動をしやすくすることが重要ではないでしょうか。最後に、「新たな行財政運営（行政運営・財政運営・公共施設）」ですが、「市民のニーズに応える職員の育成」を重視したいと思います。

コンサルタント：全体を通じ、市民の意見を市政により反映できる仕組みをいかに構築できるかお考えいただき、それが「特区の活用」や「ボランティアの連携の仕組みづくり」といったアイデアにつながっていると感じます。職員と市民が共により良い市政の実現に向けて何ができるかを問い続ける姿勢が重視されているのだと思います。

委員：Dグループではまず、「児童福祉の充実（子育て）」について議論しました。現行計画からの修正点としては、「次世代を育成するため」との文言は不要と考え、子育てで孤立しがちな人を支援するような文章を盛り込むべきではないでしょうか。また、「多様なニーズに応える保育」という文言は、各事業者の自由な運営を促すような内容に変えてはどうかといった意見がありました。次に、「学校教育の充実（教育環境・教育活動）」ですが、「生きる力」はもう少しみ砕いて、「自己肯定感」や「主体性」といった文言に置き換えた方がよいと考えます。また、外国出身の子どもや障害を持った子どもも意識し、「多様性・個性を重視する教育」といった文言を加えてはどうかといった意見もありました。次に、「青少年の育成（青少年）」については、「郷土愛」との文言に重々しさを感じるので、必要ないのではないかと指摘がありました。また、前回の会議でDグループでは「将来都市像」として「あそびがいっぱい笑顔あふれるまち あげお」を提案しましたが、これを踏まえ、「まちづくりの

基本方向」の見出しには「充実した市民生活」といった文言を入れてもらい、「大人も子ども余裕をもって生活できるような環境づくり」といった言葉を文中に盛り込みたいと考えます。このほか、子育てが終わってから、地域との関わりが弱まってしまうこともあるので、現役の子育て世代と、子育てを引退した世代とのコミュニケーションを図る仕組みづくりも重要との指摘がありました。次に、「市民参加と協働の推進（市民活動・コミュニティ支援・交流・情報共有）」ですが、今後市役所のマンパワーが限られてくる中、新たな団体の参画も含め、市民の積極的な活動を行政に支えてもらうことが重要であると思えます。最後に、「新たな行財政運営（行政運営・財政運営・公共施設）」ですが、やはり民間活力を活用することで、行政のスリム化を図ることが重要ではないでしょうか。

コンサルタント：日頃から子育て、教育に関わっておられる方が多い D グループでは、現場の視点を活かした話し合いをしていただき、「生きる力」や「郷土愛」といった現行計画の文言に対してご意見をいただきました。また、前回協議いただいた将来都市像にあった「あそび」を活かしたご提案もいただきました。「市民参加と協働の推進（市民活動・コミュニティ支援・交流・情報共有）」については、今後、市役所のマンパワーが限られてくることが予想される中、何を行政が担い、何を市民が担うべきか、すみ分けを十分検討すべきであるとの認識の下、ご意見を頂戴しました。

委員長：本日も大変お疲れ様でした。続いて、次第の3「その他」について、事務局から説明をお願いします。

### 3. その他

《事務局から、第6回会議は11月1日（金）、第7回会議は11月29日（金）または30日（土）の開催を予定している旨、連絡があった。》

### 4. 閉会

委員長：そのほか、委員の皆さまからご意見はございますか。なければ、以上をもって第5回あげお未来創造市民会議を終了します。ご協力ありがとうございました。

以上